

平成24年度 福井県公共事業等評価委員会 開催結果 概要

1 日時 平成24年7月27日（金）13：30～14：30

2 場所 福井県庁 特別会議室

3 出席者

(1) 委員 10名のうち9名出席

会 長 福原 輝幸 福井大学工学部建築建設工学科教授

会長代行 宮崎 和彦 福井商工会議所理事・事務局長

委 員 加藤 辰夫 福井県立大学海洋生物資源学部教授

北川 稔 弁護士

桑原 美香 福井県立大学経済学部准教授

後藤麻理子 JA 福井県女性部フレッシュミズの部会部会長

鈴木 綾子 産婦人科鈴木クリニック副院長

原田 陽子 福井大学大学院工学研究科助教授

吉岡 隆治 第一織物株式会社代表取締役社長

(2) 事務局 (土 木 部) 竹内技幹 (防災)、廣田都市計画課長、

(総 務 部) 片山企画幹、橋財務企画課長、吉川財務企画課参事

4 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 再評価対象事業の概要説明、審議

(資料：再評価対象事業一覧表、再評価調書ほか)

【土木部評価対象事業】

(会 長) 土木部の再評価対象事業について説明を求める。

No.1 連続立体交差事業

(事務局から事業内容を説明)

(委 員) 今後のえちぜん鉄道の需要予測を踏まえ、検討すべきではないか。

(事務局) えちぜん鉄道の年間利用者は300万人を越えている。沿線市町と県が新たな支援スキームを進めている。

(委 員) 連立事業に関連したほかの事業も合わせて評価すべきではないか。

(会 長) 事業費も20億円増えて628億円となる。投資に見合うように、高架化をどのように活かしていくのか十分知恵を絞ってもらいたい。

(事務局) B/Cに反映していないまちづくりへの貢献などソフト面での貢献度も高いと考えられる。

- (委員) 跨線橋のあった日之出踏切は、いつも渋滞している。渋滞での経済的損失は大きいものである。進めざるを得ない事業だと思う。少子高齢化や中心市街地の空洞化といった問題もあるが、県と市で検討していただきたい。
- (委員) 今後の交通需要や交通形態なども考慮していくべき。
- (委員) えちぜん鉄道は、平成33年に利用者333万人を目標としていたと思う。
- (事務局) 少子高齢化が進む中、えちぜん鉄道の利用者が減らないように対策を講じていく必要がある。また、中心市街地の活性化についても、新幹線時代を踏まえ、県、市ががんばっていかなくてはならないと考えている。
- (委員) 三国線のLRT化計画はどうなるのか。
- (事務局) 田原町駅でのえちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入計画が検討されている。また、今年度に新しいLRV車両を入れると聞いている。
- (会長) 今回の事業については計画どおりに進めればよいというものでなく、将来どのように活かしていくかが重要。委員の皆さんも興味があるようであり、ぜひ期待に沿えるようお願いしたい。
事業については、「継続」とさせていただく。

(4) 閉会